

7/9

境町観光情報発信施設 & 8代葵カフェハワイ境店オープン式典

7月9日(木)、圏央道境古河IC近くに、境町の新たな観光情報発信施設と施設内にテナントとして入店した8代葵カフェハワイ境店が完成し、オープニング記念式典が開催されました。

施設では、町の地場産品の販売や移住・定住情報を提供するほか、平成30年9月に友好交流都市協定を締結したハワイ州ホノルル市の物産品も販売されています。また、この施設は、地元外食チェーンの株式会社坂東太郎が指定管理者となっており、ハワイアンリゾート風の店内では、ロコモコなどが味わえます。



式典の様子



ホノルル市の物産品も販売 フラダンスが披露されました

7/21

「アロハマスク」を着用して、令和2年第3回臨時会開催

境町と友好都市協定を結んでいるハワイ州ホノルル市のカーク・コールドウェル市長より、6月11日(木)、橋本町長宛に新型コロナウイルスを心配する手紙とともに、友好の証としてアロハを手縫いで仕上げたマスクが届きました。



境町では、新型コロナウイルスの早期収束を願うとともに、両市町の友好関係が今後益々深まるよう、7月21日(火)の令和2年第3回臨時会において、議会出席者全員がアロハマスクを着用して議会に臨みました。



8/1・8/12

「S-start up」に「鶏そば山田屋」「sinamonn kitchen」がオープン

旧法務局をリノベーションし、町内で起業を志す人を応援する施設として生まれ変わった「S-start up」(境町152-3)に2店舗がオープンしました。8月1日(土)オープンの「鶏そば山田屋」では、境町で鶏出汁の都会的なラーメンが味わえると、連日賑わいを見せています。

また、町民祭など町のイベントにキッチンカーで参加してくれる「sinamonn kitchen」は、8月12日(水)にテイクアウトでシフォンケーキ等の販売を開始しました。



鶏そば山田屋



sinamonn kitchen



鶏そば山田屋

研ぎ澄まされた写実表現で空間を描く

情熱 境

第27回

卯野和宏

選りすぐりの先にたどり着く場所が十人十色
だっという体験がアートの醍醐味

情熱「境」では、境町在住・出身の方、また境町に縁のある方で、芸術、音楽、スポーツ等、様々な分野で活躍されている方を紹介します。第27回は、画家の卯野和宏さんにお話を伺いました。



- 【略歴】
◆卯野和宏 (うの かずひろ)
- 1978年 茨城県生まれ、幼稚園から境町で育つ
 - 2002年 武蔵美術大学造形学部油絵学科卒業
 - 2004年 武蔵野美術大学大学院美術専攻油絵コース修了
 - 2008年 個展 (ARTONE・銀座)
 - 2009年 個展 (東急百貨店渋谷本店)
 - 2010年 個展 (アートフェア東京)
 - 2011年 個展 (アートフェア東京)
 - 2013年 第13回伝統からの創造 21世紀展 (東京美術倶楽部、他/以後15年まで毎年) 個展 (高島屋大阪店)
 - 2014年 第9回前田寛治大賞展 (日本橋高島屋、倉吉博物館)
 - 2016年 第1回創と造展 (東京美術倶楽部、他/以後19年まで毎年) 個展 (日本橋三越本店)
 - 2018年 「卯野和宏・安彦文平 二人展」 (春風洞画廊、阪急うめだ本店)
 - 2020年 個展「光と闇の円環」 (日本橋三越本店)
- 【作品収蔵】 鶴の来る町ミュージアム、ホキ美術館、日南町美術館、サクラアートミュージアム



令和2年6月に日本橋三越美術ギャラリーで開催された個展の様子



「檸檬と葡萄」(33.3×33.3cm) 油彩 2020 「対岸の音」(45.5×53cm) 油彩 2020

◎作品の原風景・境町
大人になり、境町を離れてからの年月の方が長くなりましたが、実家がある境町に帰省してみると三十年くらい風景が変わっていないところもあり、懐かしい気持ちになります。10代の頃、猿島コミュニティセンターの辺りを飼犬と一緒によく散歩していました。地平線が見えるくらいの広がりがあり、特に夕暮れ時には空や宇宙と繋がれるような感覚がありました。あの景色は今でも凄く好きです。自分の作品イメージの源流をたどると、そこには必ず境町の景色が広がっています。

境町第一中学校時代の美術の教科書で知って以来ずっと好きな画家、アンドリュー・ワイエスの作品には「あ、この気配、この太陽の光り方を知っている...」というような不思議な既視感があり、生まれた国や時代が違えども個人的な記憶と静かに共鳴し混じり合ってしまうような深い豊かさを感じます。自分自身が感



「空へ」(65.2×45.5cm) 油彩 2020

◎自分の選択を誇りに
芸術に向き合う時、作り手側も鑑賞者側においても、「これは好き」「これは好きではない」と自分の感覚を選択する場面が多くあります。その選択に「正しい答え」はありません。そういった選択を重ねていくと、自分とは違う意見に対しても、自分の視点と他者の視点を大切にしながら冷静に接し判断することが出来るようになっていきます。芸術に向き合う中での「自分で選ぶ」という体験の積み重ねは、自分の人生を生きる上でも大きな支えになってくれると思います。

◎境町へメッセージ
美術へ繋がる環境が境町にはない、という印象が子供の頃からあったので、隈研吾さん設計の美術館が境町に出来ると聞いて大変驚きました。美術の道を目指すという「仙人になる」と同じような受け止め方をされがちでしたが、美術は職業の一つとして存在し、人が人として存続する為に必要な「糧」として、生きる上での循環にちゃんと含まれています。今後、美術に興味を持つ子どもたちにとって、輝かしい未来へと繋がるきっかけになってもらえたら、とても素敵なことだと思います。